

## 令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 東京都立三田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（庶務担当）＝事務局長、副校長、非常勤教員 計3名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭4名（教務担当、生活指導担当、進路指導担当、1学年担当）、主任教諭2名（国際教育部主任、庶務部主任） 計9名
  - ・評価委員の構成  
副校長、主幹教諭（生活指導担当）、主幹教諭（庶務担当） 計3名
- (4) 協議委員の構成  
有識者3名（大学名誉教授、大学客員教授、進路指導研究会）、PTA会長、同窓会会長、同窓会役員、地域住民代表、近隣中学校長、近隣小学校長、消防署出張所長、区防災担当者、スクールサポーター 計12名
  - ・評価委員の構成  
有識者2名（大学名誉教授、大学客員教授）、PTA会長、同窓会会長 計4名

### 2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和2年7月 書面開催（資料を送付し、メール等による意見交換）  
学校経営計画・現状と課題・各分掌等の取組計画説明、新型コロナウイルスの影響と対応、臨時休業中の教育活動、オンライン授業等の準備状況と生徒の自宅のインターネット環境、学校行事の対応
  - 第2回 令和2年11月6日（金）15時30分～17時 内部委員10名、協議委員9名  
学校経営計画の進捗状況と今後の対応（主体的・対話的で深い学びの実施・学校のICT化推進、新学習指導要領及びグランドデザインに基づいた教育課程の編成、SDGsや新しい生活様式を意識した行動力の育成）、分掌等業務取組の中間報告、新型コロナウイルスの影響と対応、意見交換
  - 第3回 令和3年3月 書面開催（資料を送付し、メール等による意見交換）  
学校経営計画取組結果と課題、「主体的・対話的で深い学び」の実施に向けた教員と生徒の意識の共有、生徒一人1台PCに対応した授業（Teams等の活用）の構築、分掌等業務取組の報告、新型コロナウイルスの影響と対応、新型コロナウイルスの大学受験への影響
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和2年7月 書面開催（資料を送付し、メール等による意見交換）  
令和元年度学校評価結果を踏まえた課題の確認、令和2年度学校評価の基本方針の確認、新型コロナウイルスの影響を考慮した生徒・保護者への質問内容の検討
  - 第2回 令和2年11月6日（金） 内部委員3名、協議委員3名  
学校評価アンケート項目・質問内容の検討
  - 第3回 令和3年3月 書面開催（資料を送付し、メール等による意見交換）  
令和2年度学校評価実施状況・回収状況・集計結果報告、アンケート結果の分析・考察、本校のスローガンの質問項目、生徒の自宅学習の取組の改善、自由意見への着目と改善

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価アンケート報告）

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・11月～12月 全校生徒 対象：830人 回収：759人 回収率：91.4%

- ・12～1月 保護者全員 対象： 830人 回収： 628人 回収率： 75.4%
- ・12～1月 教職員 対象： 45人 回収： 45人 回収率： 100%

### (3) 主な評価項目

- ・学校満足度、教育方針の理解、学習指導、施設・設備、進路指導、国際理解教育、生活指導、特別活動・部活動、安心安全な学校生活、防災教育、相談体制、地域連携、東京都教育委員会指定事業、ライフ・ワーク・バランスの推進（働き方改革）

### (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・「入学満足度」については、生徒・保護者・教員ともに肯定的回答が多い。
- ・「スローガンを知っている」については、生徒・保護者で肯定的回答が極めて少ない。
- ・「授業への取組」については、昨年度から生徒・保護者では質問を自分や自分の子どもについて尋ねる形式に変更したが、生徒では連続して増加し、保護者では大きな変化は見られない。教員では2年連続して100%である。三者ともに、生徒は真面目に授業に取り組んでいると評価している。
- ・「自宅学習への取組」については、生徒・保護者・教員ともに肯定的回答が増加した。学年別に見ると、受験を控えている3年生では肯定的回答が79%あるが、1・2年では50%台と低く、教員の評価91%と乖離している。
- ・「教員の教材・教え方への工夫」、「教員の質問への対応」については、教員では今年度から教員自身について尋ねる形式に変更したが、大きな変化は見られなかった。生徒・保護者ではともに肯定的回答が増加したが、保護者の回答では、「わからない」が25%以上あるため、生徒と比べて肯定的回答がかなり少ない。
- ・「施設・設備」については、肯定的回答が三者ともに昨年度よりは増加したが、三者ともに例年通り否定的回答が肯定的回答よりも多い。
- ・「校内美化」については、肯定的回答が三者ともに昨年度よりは増加したが、保護者で50%台で、生徒・教員では30%台と極めて少ない。
- ・「適切な進路指導」については、生徒・保護者ともに肯定的回答が増加し、教員では昨年度と同程度である。
- ・「将来を考える機会」については、肯定的回答が生徒・保護者ともに昨年度より増加し、教員では少し減少した。
- ・「将来について考えている」については、保護者の肯定的回答が、生徒・教員と比較して多い。
- ・「視野を広げる教育」については、生徒では肯定的回答が2年連続して増加し、保護者・教員では3年間であまり変化が見られない。
- ・「基本的な生活習慣」については、三者ともに肯定的回答が2年連続で増加した。
- ・「規範意識」については、生徒・保護者ともに肯定的回答が増加し、学年間の差もあまり見られない。教員では過去3年間であまり変化は見られない。
- ・「品位」については、生徒・保護者ともに肯定的回答が増加し、教員では昨年度と同程度である。
- ・「学校行事」「部活動」については今年度は新型コロナウイルス対応で制約を受けることが多かったが、学校行事では昨年度から大きな変化は見られなかったのに対して、部活動では生徒・保護者ともに3年生で肯定的回答の減少が顕著で、ともに半数に達しなかった。教員では、2項目ともに大きな変化は見られなかった。
- ・「体罰・いじめがない」については、肯定的回答が生徒・保護者の全学年で90%を超え、生徒では全項目中で最も多く、保護者では2番目に多く、教員では100%と三者ともに評価が高い。
- ・「防災教育」については、三者ともに肯定的回答が大幅に減少し、生徒・保護者ともに1年生での減少が顕著である。
- ・「相談・連絡への対応」については、肯定的回答が生徒・保護者ともに増加し、教員では2年連続で100%である。保護者では「わからない」が19.2%あり、肯定的回答は教員・生徒と比較すると20%以上少ない。
- ・「地域との良い関係」については、教員では肯定的回答が昨年度まで90%台で推移していたが、今年度は80%台前半に減少した。生徒・保護者ともに例年、全設問平均を下回り、教員との評価の差が大き

い項目であるが、今年度は肯定的回答が更に減少した。また、保護者では「わからない」の回答が48%あり、例年と同様に全設問中で最も多い。

- ・東京都教育委員会指定事業について、認知度は各事業で生徒・保護者ともに80~90%あり、保護者の方が生徒より少し高い。各事業の成果については、保護者では「わからない」の回答が多く、肯定的回答は生徒より少ない。
- ・「進学指導推進校」については、認知度は生徒・保護者ともに昨年度より少し高くなっている。事業の成果については、肯定的回答が生徒では80%台に増加した。保護者では昨年度は減少し70%を下回ったが、今年度は70%台に回復した。学年別に見ると、生徒・保護者ともに受験を控えた3年生で最も多い。
- ・「知的探究イノベーター推進校」について、認知度は、生徒・保護者ともに80%を超えた。学年別・入学年度別に見ると、3年生・30年度入学生（本事業1期生）の認知度が最も高い。事業の成果についても、生徒・保護者ともに、肯定的回答が年々増加しているが、生徒の回答を学年別に見ると、2年生で肯定的回答が最も少ない。教員では、肯定的回答が昨年度増加し90%台になったが、今年度は80%台に減少した。
- ・「英語教育推進校」について、認知度は生徒・保護者ともに昨年度より上昇し、教育委員会指定事業の中で最も高い。保護者の認知度も80%台後半で推移していたが、今年度は90%を超えて「進学指導推進校」の認知度をわずかに上回った。事業の成果については、肯定的回答が生徒では昨年度と同程度で、保護者では昨年度60%台に減少したが、今年度は70%台に回復した。教員では過去2年間95%前後であったが、今年度は80%台に減少した。
- ・「働き方改革」について、認知度は生徒では昨年度は大幅に上昇し今年度は昨年度と同程度であったのに対し、保護者では2年連続で少しずつ上昇している。取組に対する教員の肯定的回答は2年連続で増加している。

#### (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・「学校行事への取組」の項目で各学年とも肯定的回答が多いことや学校行事に関する自由記述から、コロナ禍での制約の多い中で、時期の変更や実施方法の工夫等により可能な限り学校行事の実施を図り、生徒による実行委員会が主体的に運営できたことに対して、生徒・保護者から一定の理解が得られていることが確認できた。これに対して「部活動への取組」の項目では、生徒・保護者ともに肯定的回答が1・2年生では多かったが、3年生では半数にも満たない結果となった。3年生にとって活動できる最後の期間に部活動が中止となり、公式大会も中止となったことが、3年生の心に与えた影響の大きさが推察できる。
- ・保護者の回答では、地域との関係、東京都教育委員会指定事業の成果、学習指導や教員の指導・対応等に関する項目で、「わからない」という回答が多く、肯定的回答が少ない。生徒・保護者への配布文書、保護者会、ホームページ等で保護者への情報発信を工夫するとともに、保護者との面談を設定する等、保護者とのより緊密な連携を図ることが重要である。
- ・知的探究イノベーター推進校の成果については、生徒・保護者ともに、肯定的回答が年々増加しているが、生徒の回答を学年別に見ると、昨年度に引き続き、課題研究に取り組んだ2年生で肯定的回答が最も少ない。教員の肯定的回答も、昨年度は増加し90%台になったが、今年度は80%台に戻った。昨年度は2学期に生徒が取り組まなければならないことが集中したことが2年生で肯定的回答が少ない大きな要因と考え、今年度に向けて、1年の3学期から2年の1学期の時間を有効に使うよう指導する計画を立てていたが、3月から5月まで臨時休業となり6月から段階的に授業を再開することになった。今年度の場合、コロナ対応により、生徒が研究に取り組む時間や指導教員が生徒を指導する時間が十分に取れなかったことが大きな要因と考えられる。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価の「入学満足度」「体罰・いじめがなく安心」「学校行事への取組」等の項目で肯定的回答が

多いことから、生徒・保護者の大多数は本校の学校生活やコロナ禍での学校行事の取組に満足していることが確認できた。一方、学校評価において否定的回答や保護者の「わからない」の回答が多い項目や自由記述、更に協議委員からいただく意見や助言、情報を通して、教職員が重点的に取り組むべき課題や取組の方向性について認識を深めることができた。

- ・協議委員に、生徒の主体的な学びを中心とした学習活動、教育活動への意識と実践、教員の指導や対応、生徒の学習・生活に対する姿勢等について評価していただくとともに、課題や具体策についても的確な助言をいただくことができた。また、協議委員に本校の教育活動を理解していただくことにより、本校の教育活動への協力や理解をいただくことができた。

## (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・「自律・自学・チーム三田で高い志の進路実現」というスローガンについて、生徒・保護者の認知度が低く、教員でも84%にとどまっている。協議委員からは、「本校の期待する生徒の姿」には、「…『教養・探求・立志そして世界へ』のスローガンの下…」とあり、「スローガン」という言葉の使い方にあるという意見をいただいた。「スローガン」の定義を明確にして、本項目の質問について検討する必要がある。
- ・「自宅学習への取組」に対する1・2年生の回答と教員の回答の乖離について、協議委員から授業での反応や課題の点検等で生徒の学習状況を把握し、「自学」を支える教員の役割について意見をいただいた。各教科での主体的な学びや探究的な学びをより具現化していくことで「自学」の動機づけを図り、生徒になりたい・やりたいことを持たせる動機づけとしてキャリア教育の充実をより図ることが重要である。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価アンケートを活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

### (1) 学校運営

- ・教務部・進路指導部・教科主任会が連携し、新学習指導要領及びグランドデザインに基づいて編成した教育課程を見据えた教育活動を実施する。
- ・戦略的な情報発信を展開し、本校の教育に理解と共感を抱く保護者・生徒の拡大を図り、「高い志の進路指導と国際理解教育」の具現化に対する意欲がある生徒の獲得を目指す。

### (2) 学習指導

- ・「高い志の進路指導と国際理解教育」を実践し、SDGsや新しい生活様式を意識した行動力を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。
- ・教員と生徒の意識の共有をより図り、「主体的・対話的で深い学び」の授業の実施を推進し、基礎基本の学力伸長と基礎体力の向上を図る。授業では与え過ぎず、ルーブリックを活用し、思考スキルの獲得を推進させる。
- ・「知的探究イノベーター推進事業」の成果を継承し、総合的な探求の時間及び全教科で「新しい価値」を創造する探究学習に取り組む。
- ・校内体制を整備し、Classi、Microsoft Teamsを活用して授業と自宅学習の住み分けをし、生徒一人1台PCに対応した授業を構築する。

### (3) 生活指導・進路指導

- ・品位ある生活態度とルール・マナー遵守の態度を基本とした自律性の育成を図る。
- ・生徒会・HR活動・学校行事・部活動等の組織運営について、生徒の委員会が中心となって、生徒主体に運営する支援体制を整備し、望ましい人間関係の育成、協調・協働の精神や連携意識の涵養を図る。
- ・各教科での主体的な学びや探究的な学びをより具現化していくことで「自学」の動機づけを図り、生徒になりたい・やりたいことを持たせる動機づけとしてキャリア教育の充実を図る。

### (4) 健康・安全

- ・生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図る。
- ・生徒が充実した学校生活を送れるように、安全に配慮して、施設・設備の改善を図る。

## 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

### (1) 協議委員人数 12人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
7	3				1	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回